

6 いつ、どこで、評価するのか

計画的に評価する

授業の中での評価活動を進めるにあたり、評価規準に合わせて評価方法を決め、学習活動を構想することが必要です。

どうやって生徒の思考や発言・行動を見取るのか、学習活動のどの場面で生徒の変容を見取るのか、「努力を要する」状況（C）の生徒へはどのように支援するかを想定し、計画的に評価することを心掛けましょう。

☆「指導にいかす評価」とは何か

学習の過程で行う評価のことをいいます。生徒の学力の定着状況の評価することによって、教師は生徒の教育的ニーズが把握でき、授業にいかすことができます。

また、一方で一定期間での生徒の活動状況を通知表等に記録するために行う評価を、「指導にいかす評価」に対して「記録に残す評価」といいます。詳しくは4章-1を参考にしてください。

指導にいかす評価

単元（題材）の終了後に「評価をして終わり」ということではなく、「生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善にいかす」ことが求められています。そこで、「指導にいかす評価」をすることが大切です。

その日の授業を振り返り、「努力を要する」状況（C）の生徒を正確に把握し、すぐに授業改善に取り組みましょう。生徒一人ひとりに対して学習内容の確実な定着を図ることで、全員が「おおむね満足できる」状況（B）に到達することができます。

「指導と評価の一体化」に取り組み、生徒のためのより良い授業を考えていきましょう。 → 4章-6

評価方法

目標が実現できた状況の評価するためには、観点ごとの評価規準に合わせた評価の方法と学習活動が必要です。その時間に何を身に付けさせるのか、ねらいを明確にして、評価方法を考えましょう。

個別支援
が必要な
生徒への
対応を考
えよう

小さな一歩を認めよう

生徒が自分の進捗で努力し、学習していることを認めましょう。小さな一歩を認めることで、生徒は自信を持ち学習することが楽しくなります。

目に見える評価

言葉で評価するだけでなく、生徒自身が目で見える形で評価することも大切です。項目ごとにシールやスタンプで印を付けることで達成状況が明確になり、分かりやすくなります。



評価の進め方

評価活動には、生徒の行動や発言の状況の見取り、ノートやワークシート、レポート等の記述や作品、自己評価等のポートフォリオ評価、パフォーマンステストやペーパーテストなどの記述による評価があります。

評価方法の段階

観察・点検

行動の観察・・・学習の中で、評価規準が求めている行動の「観察」をします。

記述の点検・・・学習の中で、机間指導などにより記述の内容を「点検」します。

確認

行動の確認・・・学習の中で、行動などの内容が、評価規準を満たしているかどうかを「確認」します。

記述の確認・・・学習の中で記述された内容を、ノートや提出物などにより「確認」します。

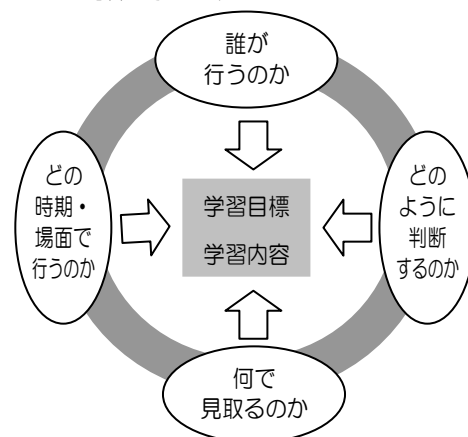
分析

行動の分析・・・「行動の観察」や「行動の確認」を踏まえて、その内容を「分析」的に評価します。

記述の分析・・・「記述の点検」や「記述の確認」を踏まえて、ノートや提出物などの記述の内容を「分析」的に評価します。

<「確かな学力を育てるために」学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ
(平成24年3月 神奈川県教育委員会) から抜粋>

図 評価方法の決定



★ポートフォリオ評価とは何か

学習活動において生徒が作成した小論文・レポート・作品など、活動の様子が分かるものを資料として保存し、教師がそれらを用いて何を生徒に身に付けさせることができたか、また何が課題であるのかを具体的に示し伝える評価方法です。この評価を用いることで、教師は生徒の目標到達や課題設定の在り方を考えることができます。

学習活動中での評価

例えば、話し合い活動のとき、どのような評価をすればよいのでしょうか。本時のねらいに合わせて考える必要があります。

一般的には、他人の話を聞いているとか発言をしているといった話し合いそのものの活動状況など量的なものを評価するのではなく、話し合いを通じてその活動のねらいを達成できているかといった質的なものを評価します。ただし、国語の「話す・聞く能力」に係る「関心・意欲・態度」や外国語の「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」をねらいとしている場合は、発言をしているといった活動状況も評価の対象となるでしょう。

生徒の「分かる！」を見取るために、授業記録を取ろう！

教師が考える学びの流れは、必ずしも「生徒の分かる道筋」ではありません。生徒が基礎的・基本的な知識や技能を習得し、自ら活用につなげられる授業づくりのために、授業記録を取りましょう。一つの方法として「授業ノート」があります。授業終了後に生徒にノートを渡し、その日の授業をノートに再現させます。生徒に交代でこれに取り組みせることによって、授業の様子や理解の状況、感想などをつかむことができます。